

# 柏樹

会長 川口市退職校長会 第22号 令和3年2月1日

## 吾が青春白書

堀内 衛



岩波新書の中に「埋もれた金印」という著書がある。

早稲田大学教

授であつた藤間生大氏の著したものだ。私が高校2年の時、先生の自宅で行われていた日本史のゼミに参加した。先生は早大以前、浦和高校で教鞭をとられたことがあり、その当時の生徒であつた先輩に誘われたのである。このゼミで徹底的に教えられたのは、日本古代史よりも唯物論であり、マルクス・エンゲルスの論理であつた。

埼大入学後もこのゼミに通つた。

大学2年の時には、自治会の会長となり、文理学部、教育学部の要望をまとめ、教授会を通して、その実現のための活動を展開した。私は自治会活動で、授業には殆んど出ずに自治会室で過ごした。

当時、殆んど大学の自治会の活動はマルクス主義に基づくものであつた。

自治会会員の中には政府の要人宅に火炎瓶を投げ込むといった事件を起こした

者もいたようだ。こうした活動は、目的を表に出さない地下活動であつた。この年、活動の大転換があつた。

活動の方針を社会に明らかにし、議会を中心とした活動にしたのである。唯物論、マルクス理論を信じ活動してきた者にとつて、この転換はとても受け入れられるものではなかつた。

私は自治会活動を停止し、登校することをやめ、自宅に籠つた。この活動の転換に賛同できない多くの者達はゲバ棒などを持って活動した。3年生となつた。久しぶりに仏文演習のアラゴンの詩の授業に出た。楽しかつた。

この講座に、教育から2人の先輩がいた。以後、卒業するまでフランス現代詩などの訳などして楽しんだ。

5年で卒業し、秩父の僻地向つた。心底、信じ行つた活動を裏切られた思いは離れることはなかつた。とにかく、それを振り払ひたかつた。物言わぬ自然の中での文教場の生活は心洗われるものであつた。

子供達と山や川で思い切り遊んだ。しかし、3年でこの地を去ることにし

た。公安委員会が追つてきたのだ。子供達には悪い印象をどうしても避けたかつたからだ。

そこで、吾が青春の幕はおりた。以後、85歳となつた今日まで、何かを信じ活動することはやめた。身の回りに起こる事柄には誠実に対処するよう心掛けた。後は次の世界を静かに待つだけである。

## 老荘を師として

平田 幸二郎



私が中国古典に興味を持ったのは、高校の授業で孔子の「吾十有五にして学

に志し、三十にして立ちし」に触れてからである。孔子にはあまり深入りせず、大学入学以降、現在に至るまで、莊子・老子・菜根譚を師としてきた。与えられた境遇の中で自己の道を逞しく進んでいくことを考えるとき、老子・莊子・菜根譚は、精神の不屈さを示してくれる書物であつた。

老子は繰り返して「足るを知る」といふ「止まるを知る」という。あるところで満足して、踏み止まることを心得よという。「足るを知る者は富む」というのは、どこで満足するのか、その

限界を弁える者こそ豊かな人であるとする。また「止まるを知らば危うからず」とは、個人の生き方だけでなく、社会に対する警鐘とも受け取れる。

莊子はこれが絶対だという考えを否定する。一例として、生と死をあげる。人間は生を喜び、死を憎む。しかし、生にそれ程の価値があるのか、死はそれ程、嫌悪しなければならぬのかと問いかける。美と醜、善と悪、現実と夢、その優劣はわからない。その立場の違いで価値の違いが生じるだけで、立場が逆になれば、価値も逆になるのではないか。この世に存在するものは、夫々に存在するだけの価値があり、それを認め合うべきだという。この絶対的価値観に対する否定が彼の思想の根底に流れている。

「菜根譚」に順逆一視という言葉がある。順境も逆境も同じことだと見なし、何れにも一喜一憂しないという意味である。貧乏だと心を引き締め、節約し、病気になるれば養生第一とする。辛いことでも喜びの種にならないとも限らぬ。人はそこを弁え、順逆は同じと悟り、喜び悲しみに拘らず、忘れ去ればよい。

中国の古典は、激しい変化の過程で人間を厳しく見据えている。主体性を頑としてたもちつつ、変化と環境に柔軟に即応していく生き方を教えてくれる。人生のよき友、よき師である。

——ちよつといい話——

老人会での活動

渡邊 秀人

現在、私は町会の老人会の会長をやらせていただいています。町会長をなんとか辞退することができ、「ほつ」としたのに、また、老人会の会長になつてしまいました。老人会の名称が「若水会」というのがおかしいなあと思いつながら、なかなかいい名前だなあと感じています。私もいつまでも若くありたいと願っています、日頃の生活を振り返るとちよつと無理かなあ・・・。

若水会では、月1回の「お楽しみ誕生会」、町会内の清掃等、いろいろと集まる機会があり、小さい町会としては、参加者も多く楽しく実施していました。特に「お楽しみ誕生会」は30名以上参加していただき、お話や食事・カラオケで大いに盛り上がっていました。

「家でテレビを見ているよりは、月1回でも町会会館まで来て、いろいろな人とワイワイお話しして、がっはつは！がっはつは！と笑ってくれるといいのですが」と宣伝したところ、会員の数も増え、多くのみなさんが参加してくれるようになりました。杖をついたり、買い物用のシルバーカーをこころ転がしながら参加してくれる

方も大勢いて、嬉しく思っています。

私としても皆さんが楽しく和気藹々と過ごせるよう、小嘶やフーテンの寅さんの口上等を覚えて披露したりと努力しました。皆さんが喜んで大笑いしてくれるのはいいもんですね。自分も大いに楽しんでいました。お陰でついたあだ名が「老人会のアイドル」です。「うーん。まあ、いいか」

しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症の大流行により実施することができず、大変困っています。「誕生会はいつからやるの」「皆と会って話したり、カラオケをやりたい」等の声があつちこつちから聞こえてきますが、今の状況では、どうしてもできません。役員会でどうするか話し合っています。『三密を避け、あまり大きな声でワイワイやらないように』では、何も出来ません。

今、考えているのは「紙芝居」です。学校のようにテーブルを同じ方向に向くように並べて、接触をできるだけ避ければなんとかなるかなあ。以前にも2回やったことがあり、かなり受けて評判が良かったので何とかならないかと考えています。

もっとよく検討し、少しでも会員の皆さんが元気になるよう努力しなければいけないと頭を悩ませています。皆さん！何かいいアイデアは、ありませんか？

ディスプレイ〇〇

川田 博史

「〇〇のオープン、おめでどうございませう。太陽をテーマにし、新しい発見ができる開かれた〇〇、そして施設が連携したネットワーク拠点としてオープンされた貴館の活躍に注目しております。：（以下略）」これは、古いお話ですが、平成15年4月に元宇宙飛行士の毛利衛氏からいただいたメッセージです。〇〇とはそうです！「川口市立科学館」のことです。

滅多に経験することができない科学館の立ち上げに私は携わることができました。そこで当時のことを、宣伝を兼ねてちよつとだけ、お話しさせていただきますたいと思います。

ところでSKIPシティのSKIPは「サイタマ・カワグチ・インテリジェント・パーク」の頭文字だということはご存知でしょうか？これだけでも科学館の魅力を発見したいと思われた方がいらつしやるのではないのでしょうか？

当時の「文部科学時報」には「子どもから大人まで、楽しみながら学ぶことができる太陽をテーマとした科学館『サイエンスワールド』がグランドオープンしました。（略）参加体験型の科学館で、3施設から構成されています。（略）」と掲載されました。太陽を

「地球の母なる星」と位置付け、地球上の様々な自然現象の神秘を解き明かす役目を担っています。

科学展示室にある装置の多くはオリジナルな発想で製作され、日本では初めての仕組みを施した装置があります。例えば「竜巻ボックス」は屋根付きの自立したボックスですが、支える4本の柱がそれぞれ360度回転する仕組みとなつています。「断面をみる」も当時では新たな方法で造られた業者さん泣かせの展示品です。しかし、その結果、これまでに類のない参加体験型重視の展示室となつたことは言うまでもありません。また、装置には説明書きが無く、来館者の方はインストラクターと対話しながら科学の原理・原則を楽しむことが出来ます。ただ、説明者にとつては説明しながら操作することもあり「水を昇らせる」や「アーチを作る」等は体力が必要で汗だくになつて説明をしていました。私は「これは参加大変型です。」と説明していたことを思い出します。展示室で様々な自然現象を観察し、何かを発見し、それが正しいことなのか自分で確かめることが出来る器具が備えてあることも魅力の一つです。宣伝ばかりになつてしまいましたが、科学館はたくさんの魅力があります。気の合う方とGOTO。〇〇ではなく、Discover科学館として地元の再発見をお勧めします。

## 日々雑感

### 「悠々自適」というけれど

阿部 正一

仕事はしていないというのと、それじや、悠々自適ですな、羨ましいなどと  
言われる。いちいち説明するのも面倒  
なので、そうですね、と答えるが、老  
人の生活は傍目で見ると遥かに忙し  
い。「悠々自適」は、実は日々の「奮闘  
努力」の結果なのだということとは、「老  
い」を実感したものでないとなかなか  
理解できない。

なぜ、忙しいか、それははつきりし  
ている。これまででは5分でできたもの  
が30分かかるとなったり、場合によ  
ってはできなくなることも多いから  
だ。私の場合は持病があつて、歩行が  
不安定なので杖をつくようになった。  
泣く泣く自転車も諦めた。もともと、  
運転免許を持たない私にとつては、自  
転車は行動範囲を保障する大切な手段  
だったので、これで医者や買い物に  
行くにも、ちよつと遠いと億劫になつ  
たりするので、気持ちを振り絞る「奮  
闘努力」が必要になった。

「老い」は「病」を呼ぶから、今は  
定期的にあるいは不定期に医者に行く  
ことが格段に多くなった。それだけで  
結構スケジュールが埋まってしまう。

老人の生活は、つくづく忙しい。

大体、私自身が「老い」を正しく理  
解していなかった。定年後、これでゆ  
つくり本が読めると思ひ、ささやかな  
がら欲しかった本の大人買いをした。  
そこで誤算に気付いた。昔の本は、実  
に字が小さい。そのことに対応できな  
いほど、私の目は衰えていた。ルーペ  
を片手にした読書は意欲を減退させる  
それに、老人になると、なぜか妙に眠  
いのだ。大事な本に、いつの間にかヨ  
ダレの垂れていることも稀ではない。  
たかが読書でも「老い」たる者には、  
「奮闘努力」の覚悟が必要になる。

老人は身体もそうだが、心を奮い立  
たせるのにも力がある。何もしなけれ  
ば、孤独感や疎外感が迫ってくる。死  
や別れが身近だからだ。「老い」に必然  
的に伴ってくる哀しみや寂しさを乗り  
越えなくては「悠々自適」は訪れない。  
だが、これもなかなか難しい。

学校は、老人を「賢人」として迎え、  
その経験や知恵を子どもたちの生活や  
学習に生かす試みは、全国の学校現場  
で盛んに行われている。だが生身の「老  
い」を子どもたちが「学べる」機会や  
システムはあまり聞かない。

高齢化社会の進展の中で「老い」は  
子どもたちのすぐ隣にある。「老い」を  
学ぶ教育、そんなものも必要な時代な  
のかもしれない。

### 今思ふこと

小濱 治人

退職後縁あつて、ある市の学校支援  
指導員として勤務しています。現職中  
は、二つの市で教育委員会事務局の学  
務課の仕事させていただきましたが、  
指導や教育相談に関わる仕事は初めて  
でした。主な業務は①担当校を訪問し  
て各学校の不登校や虐待、発達障害等  
の現状把握と対策についての相談②電  
話相談③指導訪問や研究発表等の指導  
・助言です。学校訪問や電話相談、職  
場での様子を見てみると感じることに  
二つあります。

一つは、自閉・情緒の悩みを抱えた  
児童や保護者が急増していることです。  
担当指導主事が毎日懸命に夜遅くまで  
学校や家庭と連絡を取りながら進めて  
います。学校現場は、特別支援学級だ  
けでなく、通常学級でもその対応に汗  
を流しています。特別支援教育の視点  
に立った教育が国や県・市で叫ばれて  
から久しいのですが、正直この視点に  
立った教育の深化は、まさに急務と言  
えます。まだ、この視点に立っていない教  
師の言動による事故や問題が増えてい  
るように思います。

もう一つは、やはり教師は授業が一  
番重要であるということです。子供た  
ちの生き生きとした授業での活動の様

子は、見ているだけで幸せを感じ、つ  
い微笑んでしまいます。今、若い教師  
が増え、日々懸命に奮闘しています。

しかし、児童主体の授業や深い教材研  
究は、一朝一夕で身につけられるもの  
ではありません。言うまでもなく、た  
ゆまぬ研修の積み重ねが肝要です。ご  
承知の通り教師の研修は、3つに分類  
できます。職務研修・職専免研修・自  
主研修です。職務研修の一つに指導訪  
問があります。この研修があるので、

教師は、通常、最低1年に1回は、自  
ら指導案を提出し、教材研究等の成果  
に対し、指導者の評価を受けることが  
できます。これは非常に大切なことだ  
と考えます。1回の指導の時間も高々  
数分かもしれませんが、しかし、児童の  
より良い変容を目指し、必死で考えた  
授業を第三者から評価を受けることは  
「主体的・対話的で深い学び」へのは  
じめの一步になると考えます。恥ずか  
しなから、不肖、私も指導を命ぜられ  
たときには、自分自身が若いころから  
素晴らしい先輩方に指導されたことを  
踏まえ、改めて指導要領解説書や教科  
書を詳細に調べながら学び直します。  
これがとても楽しく感じられる今日こ  
の頃です。

この仕事についていられるのも、あ  
とわずかです。今後も自ら精進し、少  
しても先生方と共に喜びを享受しなが  
ら過ごしたいと考えています。

# 教育情報

## 『未来を生き抜く人材育成』

### 学力保障スクラム事業

川口市立木曾呂小学校  
校長 中河 正明

本校は、平成29年度より埼玉県教育委員会より『未来を生き抜く人材育成』学力保障スクラム事業の指定を受け、モデル校として実践してきた。

1 事業の趣旨



家庭の社会経済的背景が厳しく学力に課題のある児童に対して「特別な手立て」を講じることにより、当該児童と他の児童との学力格差を改善するとともに、他の児童も含めた全体の学力を向上させる。

## 2 事業の取組内容

### (1) スクラム加配の教科と授業時数

国語(書くこと・言語事項) 算数(数と計算)を通して学力向上

4年生 4クラス 算数…各クラス3時間/週 国語…各クラス1時間/週  
5年生 4クラス 算数…各クラス3時間/週 国語…各クラス1時間/週

### (2) 現状把握・課題の明確化

「埼玉県学力状況調査」を実施。

【国語】4年生「言語事項(文字・語句・文及び文章の構成・言葉の意味)」の定着が今一歩である。低位層の無回答が多い。学力差が大きい。

5年生 中・上位層が多く、基本的な言語事項の知識、読む・書くができる。低位層において、言語事項の知識が身につけていない。

【算数】4年生 上位層が多く、基本的な計算や知識が身につけている。低位層の無回答が多い。学力差が大きい。

5年生 上位層が多く、基本的な計算や知識が身につけている。低位層において、基本的な計算で誤答をしている。【その他】自己肯定感が低い傾向が見られる。規律や身の回りの準備を整えることに課題がある。

### (3) 算数科における取組

チームティーチングや習熟度別学習に取り組み、基礎的・基本的な知識や技能の定着を図る。

#### ○計画的なチームティーチング

スクラム加配教員をT1、担任をT2に配置し、スクラム対象児童、低位層の児童にも確実に定着するべく指導にあたった。

#### ○習熟度別学習の実施

基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る指導、一人一人の児童の資質や能力に応じた指導(発展)を行うことを目的とし、習熟度別学習を実施した。

#### ○夏季休業日を活用した算数教室

夏季休業日を活用し、学習内容の定着が不十分な児童を対象に少人数での算数教室を実施し、学習内容の定着を図った。



・日時  
全学年 5日間 午前9時半～11時

・内容  
学校で用意するプリント(各学年算数部員が準備)を活用し、スモールステップで進める。

○近隣中学校・高等学校との連携  
算数教室に、川口北高校、北中学校の生徒の学習支援ボランティアを募集し、協力を得た。

#### ○学習支援ボランティアの活用

校外のボランティア(教員経験者3名、学生ボランティア1名、計4名)を募り、補習授業等での学習支援を行った。学習支援員の活用に関しては、加配教員が中心となり、毎週の時間割の設定・確認を実施した。

### (4) 国語科における取組

加配教員が毎週一時間ずつ入る国語の時間に、「書くこと」や「言語事項」に関する単元を取り扱い、TTで指導を行った。

4年生では、クラス内で二手に分かれ、習熟度別に作文課題や言語事項に関する問題に取り組んだ。

5年生では、年間を通して言語事項単元で、国語辞典や漢字辞典を活用する授業を行った。

### (5) 朝学習の取組

【算数タイム】月曜日 10分間 計算文章問題

【国語タイム】水曜日 10分間 漢字言語事項に関する内容 書くこと

【チャレンジタイム】木曜日 10分間 活用問題(算数・国語を1週おきに実施。)

【読書タイム】金曜日 10分間 おわりに

「わかった・できた・使えた」と感じる授業を実践することで、児童の学習意欲を高めることができる。今後も研究を継続していきたい。

## 編集後記

会報「柏樹」第22号をお届けいたしますと共に玉稿を賜りました皆様にごより感謝申し上げます。

昨年末より、新型コロナウイルスの感染が都市部を中心に再拡大しております。変異ウイルスも出て、この状況がいつまで続くのか、不安な気持ちになります。コロナを正しく恐れながら、一日も早く収束することを祈るばかりです。  
(村田文男)